

## 堀川再生のための連携プロジェクト 第4グループ 第7回会合議事録

### 1. 全体概要

日 時：平成 18 年 11 月 18 日（土）2:00～3:30 P M

場 所：名古屋工業大学 24 号館 1 1 6 号室

参加者：[堀川 LC]徳永東三，[高年大学]佐伯正，[名古屋市]加藤丈晴、[国交省]太田均、  
[名古屋市立大]及川 理、[名工大]和久昭正、小池隆之、兼松健治、吉田 尚(書記)、  
原 陽平、(欠席)篠田藍子、

### 2. ワークショップ

1)前回の議事録と、今回の検討内容の確認。

2)議 題：パンフレット作成について

### 3)審議内容

和久：前回議事録の要点の説明。

徳永：議事録の中で、上流と下流の境をどうするか？ということで猿投橋ということだが、  
感潮区間による区別ではないかと思う。厳密な意味で上流と下流の区別はできない。

#### （篠田案について検討）

和久：時間軸で歴史的内容を示し、堀川の環境、特に水質の変遷を表す点が面白い。

加藤：従来のパンフレットは、川の平面図を書いて、そこに名所などをちりばめて表示する  
スタイルが多い。このように時間軸と環境を組み合わせる考え方がユニークだ。歴史的  
出来事と水質の変化をまとめると面白い。

#### （吉田案について検討）

及川：クイズをもっと興味が湧くように書いたらいいと思う。

佐伯：例題として、ひとつだけ答えを入れておけばできない子供もやり方がわかっていい  
と思う。

徳永：「名所」は、堀川自体なのか、その周辺なのかが分かりにくい。堀川の名所シールの  
「名所」の選定にあたって、アンケート調査などは行われていないので、このパンフ  
レットを見た堀川 沿川に住む人が、違和感を感じないかが問題だと思う。できれば納  
屋橋や五條橋などの堀川七橋や、ザーザー(猿投)橋、樋門などの場所や、クイズをいれた  
らいいと思う。

及川：タイトルにもうひとつ修飾語を入れたらいいと思う。

#### （太田案について検討）

及川：実際の川の縮小版を入れたら分かりやすいと思う。

和久：清流に棲む魚などの表示が、理科の図鑑的で面白い。

徳永：イメージとしては良く分かる。

加藤：上流、下流で判断すると淡水域と汽水域の魚の判断が難しい。(きれい、きたないの問題ではなくなる)

太田：この図は単純に上流がきれい、下流が汚いということで作成した。上流・下流の橋を入れた方が良いのかなとも思う。

(小池案について検討)

小池：堀川の現状で、今見えるものをそこに載せたい。個人的には、いちばん見に行ってみてほしいのは空襲跡だ。

佐伯：船を浮かべて船着場を描いたらいいと思う。

(和久案)

徳永：海風と川の関係を示した図があるがこれは、何を表しているのか？

和久：川に沿って逆八の字にビルを建てる。東京の品川区などで実施している手法だ。具体的には、大崎駅付近の明電舎工場跡地における再開発事業で、この方法が採用されている。

徳永：これを堀川で実際にやろうとするとかなり難しい。突き詰めると費用対効果など難しい話になる。

和久：堀川には、「風の通り道」としての価値もあるということを示したかった。

(以上で宿題終了し、以下、自由討議へ)

加藤：地下鉄を施工したとき排水を流した。そのときは水質も浄化された。昔から木曽川の導水計画があった。また、高度成長期には、工業用水が流され、水質が悪くなった。

徳永：地下鉄の排水は 0.3t/秒入れた。猿投橋までは効果が出た。木曽川導水の気運を高める意味もあり、面白いと思う。かつて、庄内川から 3t/秒の試験導水をしたときに、水辺研究会から上流にとってそれは流しすぎだとクレームがきた。しかし、堀川全体のことを考えると多く流すべきであり、トータルできれいにするにはどうすべきか、という問題がある。そもそも、きれいになるとはどういうことかという定義も難しい。将来的に、「納屋橋では、こんな魚が見えるようになる」といった分かりやすい指標が必要だ。

及川：水辺研究会の國村さんによると、地下鉄の排水を 1999 年～2001 年の 3 年間流したことで、川がきれいになり、上流の生物・植物などの生態系が様変わりした。どんな生き物がいたかというデータもある。都市河川でも豊かな生態系が実現できたという好事例として、「みんなが努力すれば改善できるんだ！」ということを示したい。鳥以外の生物は、上流に限ってもいいのではないかな？

加藤：それをパンフレットとしてどうまとめるかが難しいが…。

及川：清流にいるような生態系が復活したんだよ、という話ができれば、夢じゃないんだという勇気になる。ただ、猿投橋より下流はまだひどい状態だ。

また、経済活動で汚れたというバックボーンは必要だと思う。その上で、今は、千人調査隊などの市民の活動で、「汚してしまったものを取り戻すのだ」という気運が高まっている。このような時代の変化を大切にしたい。

徳永：(木曽川導水について)元は「流況調整河川木曽川導水事業」で、沢山行われた水行政の一環だった。今の「木曽川導水事業」は、別の事業だ。

地下鉄排水の効果を行政も評価して、木曽川の水を鍋屋上野浄水場から大幸排水路までもってきて 3 年間の社会実験をやりたいとしている。実施は今年度中(翌年 3 月)までにはやりたいとのことだが、パンフレットの発行までには間に合わない。今後、実績が上がれば、載せられる。

兼松：第 5 斑で行っている写真コンテストの活用も宜しくお願いします。

加藤：次回の会議では、何でもいいので、各人が特色を出すようなアイデアでも書いてきていただきたい。できれば次回までに全体のレイアウトを考えて頂きたい。

### 3. 次回会合予定

日時：平成 18 年 12 月 16 日(土) 2:00 ~ 4:00pm

場所：名古屋工業大学 24号館 116号室

議題：特色あるアイデアの提案、及びレイアウト。

以上